

<座談会>

ファイバーポストを用いた支台築造を考える ——保険診療での活用

相馬 ファイバーポストが保険収載され数カ月が経過し、すでに多くの先生方が診療に取り入れているのではないかと思います。しかし、これまで自費診療でしか認められなかったファイバーポストと保険診療の鑄造メタルコアでは治療のプロセスが違うため、システムをよく理解したうえで導入すべきと感じています。

CAD/CAM冠に続き保険に導入された、メタルフリー材料であるファイバーポストを適切に使用し、患者さんに喜んでいただける治療を行うために、本日は先生方のご意見をお伺いしたいと思います。

石部 ファイバーポストの使用方法や適応症などについて検討していく前に、治療して支台築造を行うのか、それとも抜歯するのか、その判断基準についてお聞きしておきたいのですが、いかがでしょうか？

抜歯の判断基準

坪田 抜歯に至る明確な基準は単純ではなく、簡単には言えません。歯科医師一人ひとりの診断基準に違いがありますし、個々のケースによって考え方も違いがあるので、一概に「この場合は抜歯です」とは言い切れません。たとえば、残存歯質量や位置に関しては、う蝕や歯根破折などが原因で歯肉縁下深く、歯槽骨頂近くに残存歯質が位置しているケースは、抜歯と診断されることが多いと思います。しかし、矯正的挺出や歯冠延長術などで対応できるケースも少なくないと考えています(図1)。また、支台歯がどのような状態で修復や補綴されるかにも左右されます。ブリッジの支台歯となる場合は、よ



つばたゆうじ
坪田有史

坪田デンタルクリニック
〒112-0006 東京都文京区小日向 4-7-14
1989年 鶴見大学歯学部 卒業
1994年 鶴見大学歯学部 歯科補綴学第二
講座 助手
2012年 坪田デンタルクリニック 院長



そうまきいつ
相馬基逸

相馬歯科室
〒140-0014 東京都品川区大井 5-3-8
1997年 日本大学歯学部 卒業
2005年 相馬歯科室 院長



いしべもとあき
石部元朗

石部歯科医院
〒400-0024 山梨県甲府市北口 2-9-12
ニシコー北口駅前ビル 2階
1997年 日本大学歯学部 卒業
2010年 ワシントン大学大学院 卒業
2011年 石部歯科医院 院長